



住民と行政が手をとって、理想の砥部を創ってほしい  
「砥部焼と豊かな自然、みんなで創る陶街道」

# 新しい砥部物語が 始まった

## 砥部町総合計画

砥部町では平成 20 年に、町行政の方向性を示した 10 年にわたる総合計画を策定しました。住民の皆様が元気で生き生きと過ごし、安心して暮らしていけるまちづくりの実現を目指したものです。

「砥部町総合計画」は住民と行政それぞれが役割分担をしながらまちづくりを進めるための基本方針です。その骨子をご紹介します。

### Tobe Town General Plan

Tobe Town established in 2008 a general plan indicating the direction of the administration of the Town over the next 10 years. This is the basic policy for townspeople and the administration to promote town development by sharing roles and aims to form a new unique town exerting the characteristics of the region.





## 「安心・安全」を 実感できるまちづくり

保健・医療・福祉などの社会基盤面の安心・安全に加えて、防犯・防災、環境保全、食、就労、何よりも大切な人権の尊重と、あらゆる分野において「安心・安全」を基本的な価値観と位置づけ、まちづくりを進めます。

## 自立と協働による まちづくり

これからのまちづくりは、まちづくりの主役としての住民と、それを支える行政とが信頼で結ばれ、協働で進めていくことが重要です。効果的・効率的な行財政運営を行うことはもちろん、住民参画の仕組みづくりを行い、協働のまちづくりを進めます。

## 豊かな自然を 「守り・伝える」まちづくり

本町の豊かな自然・景観は心の安らぎを与え、豊かな心を育みます。また自然からの恵みは生活に潤いを与え、伝統産業を支えています。住民一人ひとりがこの豊かな自然を限りある資源だと認識し、自然環境・景観の保全と活用、循環に取り組んで次代に伝えます。

## 地域資源を活かした まちづくり

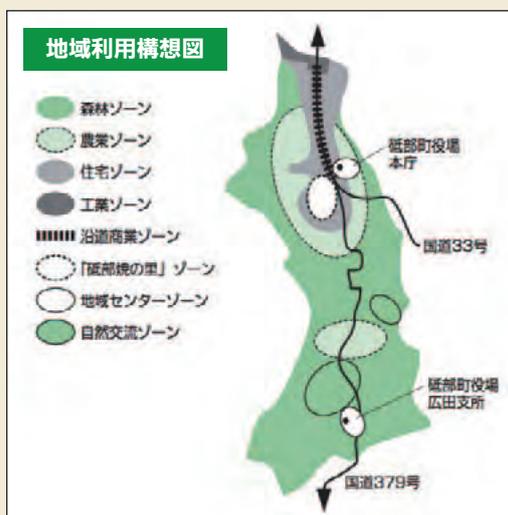
「砥部焼」をはじめとした地場産業、えひめこどもの城や県立とべ動物園、豊かな自然環境を活かした観光業など、住民、事業者、教育機関など多様な主体が有機的に連携して、地域資源を活かしたまちづくりを進めます。



## 将来像：砥部焼と豊かな自然、みんなで創る陶街道

砥部焼、ふるさとの原風景を擁する自然、賑わいどころの陶街道。これらを核として、松山近郊という立地を活かし、地域内外の交流活動を積極的に推進させることで、新たな地域の個性を創造します。

## 実現に向けて



### 【協働の考え方】

これからは「個人の自立性を尊重し、個人で解決できないことは家庭、家庭で解決できないことは地域、地域で解決できないことはボランティアやNPOなどに、それでも解決できないことは行政が補完する」という考え方が基本。仕組みづくりを担う行政と自治の主体である住民が目指すべき将来像を共有し、役割分担をする「協働社会」を目指します。

### 【土地利用の方向】

山林や河川、農地や山林を保全して次代に引き継ぎます。市街地や主要集落の基盤整備、中山間地域での定住環境の整備を進めます。また、災害に強いまちを目標に基盤施設の整備や防災対策を進め、災害予防のため保全が必要な地形は開発を抑制します。

基本計画①

# 住民と行政との信頼でつくる地域経営システムの構築



協働によるまちづくりを進めるには、住民と行政との信頼関係が基本となります。そのためにはまず、「住民参画の仕組みとまちづくりへの共通意識」「安定的な行財政運営」が重要となります。

住民をはじめ、自治会、各種団体、事業者、行政などまちづくりを担う多様な主体が、互いにまちの将来像と役割を共有し、その達成に向け、本町の地域資源を最大限に活用し、まちづくり活動が行えるよう体制づくりを進めます。まちづくりに関する情報を積極的に発信するとともに、住民側からもインターネット等を通じてまちづくり情報が閲覧できる環境を整えます。さらに、安定的な行財政運営を実現するため、効果・効率性を重視した施策の展開とそれに視合う職員資質の向上を図り、信頼される行財政運営を実現し、協働による「地域経営」の実施を目指します。

**施策1** 住民自らがまちづくりに参画できる仕組みづくり

**施策2** 「効果・効率」重視の行財政経営



### Establishment of a Regional Management System based on Trust between Townspeople and Administration

The aim is to set up a mechanism in which townspeople can participate in the town development for themselves and carry out management of the administration and finance, focusing on effect and efficiency.

# だれもが元気に安心して暮らせる環境の整備



## 「保健、医療、福祉」

高齢化が進み、中長期的に人口減少社会を迎える本町では、高齢となってもいかに健康であり続けることができるか、元気に暮らし続けることができるかが大切になります。そのためにはまず、子どもの頃から「自分の健康は自分で守る」という意識を育て、年齢に応じて適切な健康づくりが行えるようにしていくとともに、必要に応じて適切な医療を身近な地域で受けることができるよう、環境整備に取り組みます。

さらに、だれもが生きがいを感じ安心して暮らすことができるよう、一人ひとりが互いに助け合い支え合う地域福祉の充実とともに、高齢者や障害者に対する福祉サービスや安心して楽しく子育てができる環境の充実を図ります。関係機関や各種サービスと地域ぐるみの連携を図って、効率的・効果的な福祉の向上に取り組めます。



施策1 生涯健康づくりの推進

施策2 笑顔のみえる「福祉のまち」づくりの推進

施策3 地域で支え合う温もりのある福祉社会づくり

### Improvement in the Environment in which Everyone can Live Securely in Good Health

In the field of health, medical and welfare, we aim to promote life-time health and develop a warm welfare society supported by the region.

## 基本計画③

## 豊かな自然が生きる潤いある環境の整備

## 「生活環境、都市基盤」

本町に暮らす住民のだけれもが、豊かな自然のなかで潤いある生活を享受しつつ、安心、安全、快適な生活を送ることができるよう、住宅、上下水道などの住環境や道路交通網の整備、また、本町の歴史風土に調和した良質な景観形成を推進するとともに、自然環境の保全、防災・防犯対策の充実など生活環境、都市基盤の整備を進め、豊かな自然が生きる潤いある生活環境の実現を目指します。

人が暮らしやすく、自然環境に負荷をかけないために、「人へのやさしさ」と「地球へのやさしさ」の二つの視点を持って生活環境の整備を行います。

また、防災、交通事故防止、防犯体制などの強化を図る一方、地域間の活発な交流を支えるために、道路網、交通網、情報網の整備を重点的に進めます。



**施策1** 人と地球にやさしい環境の整備

**施策2** ゆとりを持って暮らせる安心・安全の確保

**施策3** 地域基盤の整備

### Improvement in an Affluent Environment where Rich Nature flourishes

For the living environment and urban infrastructure, based on a philosophy of being kind to people and the earth, we will aim at securing safety and security by prevention of disasters, traffic accidents and strengthening our crime prevention system.

# 地域で育て地域で育つ環境の整備

## 「教育、文化」

誇りある地域、そして住み続けたいと思う魅力的なまちづくりを進めるためには、人づくりが大切です。本町に暮らすすべての住民が、まちの現在と未来を担う大切な「力」であり、教育はその「力」を育む最も重要な営みです。

そのため、「まちづくり」は「人づくり」であるという理念に基づき、本町に暮らす住民一人ひとりが様々な学習や活動、交流を通じてお互いの基本的な人権を尊重し、互いに学び合い高め合うことができるよう、学校・家庭・地域の連携体制を構築し、地域の文化や歴史、施設、人材など、地域の資源を最大限に活用した生涯にわたり学び続けることのできる学習環境を整備します。

充実した余暇活動、国際化や情報化に対応できる人材育成、伝統文化の掘り起こしと保存伝承、スポーツ活動の支援などに力を入れて進めていきます。



- 施策1 地域で学ぶ生涯学習環境の整備・充実
- 施策2 学校教育の充実
- 施策3 地域と織りなす文化の振興
- 施策4 スポーツ・レクリエーションの振興

### Improvement in the Environment grown by the Region and growing in Region

In the field of education and culture, we aim at enhancement of a life-learning environment and school education, promotion of regional culture and sports and recreation.

基本計画⑤

# 賑わいを呼び活力のある産業の育成



## 「産業、観光」

本町には、「豊かな自然」、それを活かした「農林業」、伝統産業である「砥部焼」、そしてこれら地域資源を活用した「陶街道」などの観光等、内外に誇れる様々な資源があります。また、都市近郊という立地面にも恵まれていることから、これら地場産業の銘柄化（ブランド化）、高付加価値化を推進するとともに、地場産業、観光産業、住民が一体となって魅力ある交流を生み出すことにより、賑わいを呼び活力ある産業の育成を図ります。

農業においては、都市近郊という立地を活かしながら、農産物の産地化、銘柄化を目指し、生産体制の強化、担い手の育成、基盤整備、支援体制づくりなどに取り組み、林業では、計画的な林業振興と森林の機能向上を図り、美しい緑のまちを目指します。

また、総合観光資源「陶街道」を中心に、商業・工業・観光産業が一体となって活気あるまちを目指します。

**施策1** 活力を生む農業・林業の振興

**施策2** 賑わいをつくる商業・工業・観光の振興



### Development of Vigorous Industries which Bring Out an Energetic Feeling

In the field of industry and tourism, we aim at promotion of agriculture and forestry creating vitality and promotion of commerce, industry and tourism that brings out an energetic feeling.

# みんなが主役のまちづくり



## 親子二世代で広田の 高原野菜をブランド化



相原 利雄さん (63歳)  
相原 雄一さん (36歳)

「17歳で就農してから高原野菜に取り組み、ブランド化にこぎつきました。寒暖の差や日照時間の長さに加え、鶏糞、カヤ、ワラなどをすきこんだ畑のおかげです。集落を守り、人づくりと環境づくりに余生を過ごしたいですね。」(利雄さん)

「農業大学校のあと海外研修を経て故郷に戻りました。自然相手は苦労もありますが、メリハリがあるし、自分が育てた野菜を喜んでもらえるのが何より。今後は地域の若手農業者と共に法人化を目指します。」(雄一さん)



キャベツ栽培は約2.5ha、  
ホウレンソウは約1haの施設  
栽培を行っている



## 楽しい時間を分かち合う 「にこにこサロン」を主宰



土橋 桂子さん (76歳)

「平成22年に始まった『頭ノ向にこにこサロン』では月2回の午前10時～午後3時、最高齢93歳を交えて20名あまりが健康チェック、体操、ゲームなどでにぎやかに過ごします。内容は皆で相談して、得意な人が先生になるんですが、アイデアが尽きて困ったことはありません。みんなが主役のサロンですから、代表の私は裏方に徹して、『今日も楽しかった』と言っていただくことだけを考えています。」



サロンの目玉はハンドベル。  
福祉まつり、芸能発表会など  
で披露



## 助けたり助けられたりの ファミサポ制度を利用

松島 智子さん (31歳)

「趣味の時間をもつため、数年前からファミリーサポート制度の利用を始めました。町のサポートセンターが調整を行い、相談にも応じてくれるので心強いですね。利用者サポート会員に分かれますが、両方の登録も可能です。今はサポート会員として、同年代のお子さんの面倒を見ています。急用や体調を崩した時など本当に助かりますので、利用者がもっと増えるといいですね。」



1歳から8歳まで5人の子育て  
中。育児サークル「恐竜クラブ」  
でのひととき



地域に密着した

# オリジナルな教育活動

三者が力を合わせて子どもを育てる  
高市小学校／山村留学センター



平成4年に始まった山村留学制度では、日本各地から集まった小学生が山村留学センターで共同生活をし、高市小学校に通学します。

コミュニケーションの絆が強い高市地区では、以前から、地域の全戸がPTA会員として小学校の教育活動を支援してきました。こうした背景をもつ高市小学校では、学校、地域、山村留学センターの三者が歩調を合わせ、数々の交流・体験活動を行っています。

5月の「子どもの日まつり」に行うミニ運動会、敬老会のお年寄りと交流するクローケー大会、しめ縄飾り作り、OBも出演する2月の学習発表会など、年間通して多彩な活動が繰り広げられます。

山村留学センターができたことで、中断していた秋祭りの伝統行事「舎儀利」も復活するなど、同センターは地域活性化の一翼も担っています。

## School Education rooted in the Region

At elementary and junior high schools in the Town, original efforts have been made rooted in the region. In particular, at Takaichi Elementary School, which incorporated a mountain village study program, elementary school students from all over Japan come to spend time in a communal life atmosphere.

## とべとべ 陶街道五十三次 カルタ



### 町内の小・中学生が制作

砥部町内全小・中学校の児童、生徒が、町内の見どころを言葉と絵で表したカルタです。自然や歴史、文化、特産品など、砥部の魅力を満載したカルタで休み時間に楽しむ児童の姿も見られます。学校教育課にて販売。

- 01 「子どもの日まつり」は地区をあげて留学生を迎え入れるイベント
- 02 学習発表会は、しし鍋やもちつき、出し物にぎわう。  
生徒によるオペレッタは特に盛り上がる
- 03 留学生が共同生活を送る山村留学センター

## 地元の食文化、歴史、人に学ぶ 宮内小学校



平成18年にななおれ梅組合から贈られた6本の梅の木。その実で3年生はシロップ作り、6年生は七折梅園で親子そろっての収穫(写真)と梅漬け作りなど、ユニークな試みが続けられています。このほか、詩人・坂村真民の詩と人生に学ぶ機会も設けています。

## 受け継がれる太鼓クラブ 広田小学校



全校児童による「たちばな太鼓クラブ」は平成8年に作られました。地域の指導者のもとで週1回の練習を重ね、学習発表会やひろたフェスタなどで演じます。同校ではふるさと学習にも力を入れており、その成果を学習発表会で披露しています。

## 地域学習で故郷に愛着を 麻生小学校



3年生を対象に、地域のスペシャリストを招いて体験学習を行うほか、町内に残されている民話を学んで、その舞台となった場所を訪ねる「陶街道五十三次めぐり」など、地域の魅力を再発見する多彩な試みを展開しています。

## 伝統芸能の担い手に 玉谷小学校



秋に開催される「ふるさと交流会」は、学習発表会を兼ねた、地域と学校が一体となる集まりです。地元の伝統芸能「満穂万歳」や民話などを児童が披露するほか、縄ないや竹細工を地域のお年寄りから習ったり、もちつきをしたりと、楽しい一日を過ごします。

## ボランティアによる教育支援 砥部中学校



同校では平成26年、地域ボランティアが学校を支援する「とべっ子志縁倶楽部(しえんくらぶ)」を結成。昼休みに開放される図書館での運営補佐(写真)や、放課後の自学自習の補助、街頭で生徒の登校を見守るなどの活動が行われています。

## 全員参加の獅子舞 砥部小学校



6年生全員による獅子舞は、地元の和田実さんの指導で30年以上続いています。太鼓を除く全員が2人1組になって乱舞する姿は運動会の名物に。また、6年生が50年前の卒業生を迎えて交流する「50年前の大先輩を囲む会」も同校の伝統行事です。